

令和元年度事業報告

I. 一般事項

1. 会員状況

令和元年度の会員異動状況は、次のとおりである。

会員種別	平成30年度末 会員数	入会数	退会数	増減	令和元年度末 会員数	
正会員	131	4	0	4	135	
賛助会員	12	0	0	0	12	
特別会員	行政機関等	210	0	1	△1	209
	学識経験者	51	1	1	0	51
	小計	261	1	2	△1	260

2. 理事会

(1) 理事会決議（平成31年4月26日）

平成30年度事業報告の承認に関する件、平成30年度決算の承認に関する件及び令和元年度通常総会に関する件につき、平成31年4月23日に会長から提案書を発出し、理事の全員から同意の、監事の全員から異議のない旨のそれぞれの意志表示が得られたので、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなした。

(2) 第1回理事会（第1回通常理事会）（令和元年5月20日）

ロイヤルパークホテル（東京都中央区日本橋蛸殻町）において開催し、平成31年3月7日から令和元年5月19日までの代表理事及び業務執行理事の職務執行状況に関する報告を行った。

(3) 第2回理事会（第2回通常理事会）（令和2年3月2日）

協会会議室において開催し、令和2年度事業計画及び収支予算の承認に関する件、次期幹事会員の候補に関する件、次期役員候補に関する件について審議を行い、原案のとおり決議した。また、令和元年5月20日から令和2年3月1日までの代表理事及び業務執行理事の職務執行状況に関する報告を行った。

3. 総会

通常総会（令和元年5月20日）

ロイヤルパークホテル（東京都中央区日本橋蛸殻町）において開催し、平成30年度決算の承認に関する件について審議を行い、原案のとおり承認した。

また、平成30年度事業報告並びに令和元年度事業計画及び収支予算に関する報告を行った。

4. 委員会活動

(1) 企画運営会議

企画運営会議（議長：今泉 恭一 鹿島建設㈱）を次のとおり4回開催した。

1) 第1回（平成31年4月18日）

理事会決議（4/26）、令和元年度（平成31年度）第1回通常理事会（5/20）の議案等について審議し、書籍「不動産投資・取引におけるエンジニアリング・レポート作成に係るガイドライン（2019年版）」の発行及びセミナーの開催等に関して報告を行った。

2) 第2回（令和元年9月19日）

事業推進委員会委員の承認及び会員の入会について審議し、書籍「建築設備システム診断要領」の改訂、平成30年度住宅建築技術高度化・展開推進事業「オフィスビル等の取引で活用されている建築物の技術的情報の整理業務」の結果等について報告を行った。

3) 第3回（令和元年12月12日）

令和2年度事業計画(素案)及び収支予算(骨格)、次期幹事会員、次期役員等について審議し、書籍「建築・設備 維持保全計画の作り方(新訂版)」の改訂、書籍「建築物のライフサイクルマネジメント用データ集 改訂版」の出版等について報告を行った。

4) 第4回（令和2年2月13日）

令和2年度事業計画及び収支予算、次期幹事会員の候補、次期役員の候補、代表理事及び業務執行理事の職務執行状況の報告等について審議し、第29回BELCA賞の選考結果等について報告を行った。

(2) 事業推進委員会

委員会（委員長：風間 宏文 三菱地所株）を2回開催し、今後取り組むべき調査研究・技術開発のテーマを策定し、調査研究・技術開発等の中期計画の改定を行った。

(3) アドバイザリー委員会

諸般の事情により、開催を見合わせた。

II. 令和元年度の事業概要

1. ロングライフ化に資する人材の育成

(1) 「建築・設備総合管理士（ビルライフサイクルマネジャー）」等の資格付与・登録

「建築・設備総合管理士」について、認定委員会（委員長：山本 康友 首都大学東京客員教授）及び講習委員会（委員長：南 一誠 芝浦工業大学教授）の下に、「建築・設備総合管理士」資格取得講習を東京、大阪の2会場で開催し、受講者80名のうち69名を修了者として認定した。そのうち登録申請のあった54名、「建築・設備総合管理士補」への登録申請のあった2名及び平成30年度の資格取得講習修了者で登録申請のあった8名の計64名を登録した。また、「建築・設備総合管理技術者」から「建築・設備総合管理士」への移行申請のあった13名を「建築・設備総合管理士」として登録した。

区 分	受講者数	修了者数	登録者数
資格取得講習	80名	69名	64名
移行申請	—	—	13名

なお、「建築・設備総合管理技術者」のうち、登録の有効期間を満了となって3年以内の再登録により10名を登録した。

これらの結果、令和元年度末の「建築・設備総合管理士」、「建築・設備総合管理士補」及び「建築・設備総合管理技術者」資格登録者総数は1,142名となった。

(2) 「建築仕上診断技術者」の資格付与・登録

「建築仕上診断技術者（ビルディングドクター〈非構造〉）」について、認定委員会（委員長：坂本 功 東京大学名誉教授）及び講習委員会（委員長：近藤 照夫 ものづくり大学名誉教授）の下に、「建築仕上診断技術者」資格取得講習を東京、大阪、福岡の3会場で開催し、受講者247名のうち198名を修了者として認定した。そのうち登録申請のあった175名及び平成30年度の資格取得講習修了者で登録申請のあった30名の計205名を登録した。また、登録の有効期間（5年間）が経過する者に対する更新講習等により681名を登録した。

これらの結果、令和元年度末の「建築仕上診断技術者」資格登録者総数は4,931名となった。

区 分	受講者数	修了者数	登録者数
資格取得講習	247名	198名	205名
更新講習等	691名	681名	681名

(3) 「建築設備診断技術者」の資格付与・登録

一般財団法人日本建築設備・昇降機センターと共同で資格付与している「建築設備診断技術者（ビルディングドクター〈建築設備〉）」について、認定委員会（委員長：鎌田 元康 東京大学名誉教授）及び講習委員会（委員長：川瀬 貴晴 千葉大学名誉教授）の下に、「建築設備診断技術者」資格取得講習を東京、大阪の2会場で開催し、受講者125名のうち106名を修了者として認定した。そのうち、登録申請のあった104名を登録した。また、登録の有効期間（5年間）が経過する者に対する更新講習等により446名を登録した。

これらの結果、令和元年度末の「建築設備診断技術者」資格登録者総数は2,775名となった。

区 分	受講者数	修了者数	登録者数
資格取得講習	125名	106名	104名
更新講習等	451名	446名	446名

(4) 資格者に対するフォローアップ

1) BELCA Letter

資格者に対して資格登録後の技術の維持・向上に資するため、情報誌「BELCA Letter」のVol. 41を令和元年7月に、Vol. 42を令和2年1月に発行した。

2) BELCA 資格者セミナー

BELCA資格者等に対して、技術の維持・向上及び業務展開に役立つ情報を提供するため、BELCA資格者セミナー「給湯設備の省エネルギー設計の最新動向」を開催した。

講演内容	給湯設備の省エネルギー設計の最新動向
講師	前 真之（東京大学准教授）
開催地	東京
開催日	令和元年12月10日
参加者	37名

(5) 「認定ファシリティマネジャー」の資格試験の実施及び試験対策講座の開催

1) 認定ファシリティマネジャー資格試験の実施

BELCA、公益社団法人日本ファシリティマネジメント協会、一般社団法人ニューオフィス推進協会で構成されるファシリティマネジメント資格制度協議会において、認定ファシリティマネジャー資格試験を令和元年7月14日に札幌、仙台、東京、名古屋、金沢、大阪、広島、高松、福岡にて実施し、1,172名が受験し、516名が合格した。

2) 認定ファシリティマネジャー資格試験対策講座の開催

認定ファシリティマネジャー資格試験の受験者のために、一般社団法人ニューオフィス推進協会（NOPA）と共催で、認定ファシリティマネジャー資格試験対策講座を東京、大阪にて4つのコースを開催し、218名が受講した。

(6) 次代を担う人材の育成

建築物のロングライフ化に資する研究支援事業のあり方について検討を行った。

また、建築・設備・不動産に係る企業の次代を担う若手社員等を対象とした以下のセミナーを開催した。

1) セミナー「より良い維持保全のために

～設計・施工段階でやるべきこと、やってはいけないこと～

より良いメンテナンスのために設計・施工段階で留意すべき事項についての基礎的な知識をわかりやすく解説するセミナーを開催した。

講演内容	よりよいメンテナンスのための建物所有者からの提案
講師	木下 雄一 (東京建物(株)) メンテナンス側からの設計・施工への提案 山本 義夫 (株東急コミュニティー)
開催地	東京
開催日	令和元年 10 月 2 日
参加者	49 名

2) セミナー「ライフサイクルで建築設計を考える」

建築物のライフサイクル (LC) を見通して設計する LC 設計の考え方についての基礎的な知識をわかりやすく解説するセミナーを開催したい。

講演内容	建築物の LC 設計概論及び建築設計における LC 設計の考え方
講師	山中 哲 (株日建設計) 設備設計における LC 設計の考え方 山中 哲 (株日建設計)
開催地	東京
開催日	令和元年 11 月 27 日
参加者	20 名

2. ロングライフ化の推進に必要な調査研究・技術開発及び情報発信

(1) 調査研究・技術開発

1) 書籍「建築物のライフサイクルマネジメント用データ集」の改訂

平成 26 年に刊行した書籍「建築物のライフサイクルマネジメント用データ集」について、委員会 (委員長: 山本 英雄 大成建設(株)) を 2 回開催し、掲載項目や各種データの見直し等の改訂を行い、改訂版として発行した。

2) 書籍「エンジニアリング・レポート作成に係るガイドライン (2011 年版)」の改訂

平成 23 年に刊行した書籍「不動産投資・取引におけるエンジニアリング・レポート作成に係るガイドライン (2011 年版)」について、委員会 (委員長: 中城 康彦 明海大学教授) を 2 回開催し、法令や ASTM の改正、自然災害等のリスクに対応するニーズの変化等に対応して改訂し、2019 年版として発行した。

3) 書籍「建築設備システム診断要領」の改訂に向けた検討

平成 26 年に刊行した書籍「建築設備システム診断要領」について、委員会 (委員長: 横手 幸伸 (株建物診断センター)) を 2 回開催し、物理的劣化及び社会的劣化に関する診断項目の見直しを行うなどの、改訂に向けた検討を行った。

4) 書籍「(仮題) ライフサイクルを通じた維持保全における情報管理のあり方」の作成に向けた検討

書籍「(仮題) ライフサイクルを通じた維持保全における情報管理のあり方」の作成に向けて、有識者等へのヒアリング等の情報収集等を行い、企画の検討を行った。

5) 書籍「建築・設備維持保全計画の作り方」の改訂に向けた検討

平成 28 年に刊行した書籍「建築・設備維持保全計画の作り方（新訂版）」について、平成 30 年 6 月の建築基準法改正や、その他法改正や社会情勢の変化等を反映させたものとするため、有識者等へのヒアリング等の情報収集等を行い、改訂作業を行った。

6) 書籍「ビルと大地震」の作成に向けた検討

平成 24 年以降に発行した機関誌 BELCA NEWS に掲載されたビルの地震被害や改修・BCP 策定等対策に関する記事を収載した書籍「ビルと大地震」について、作成に向けた検討を行った。

7) 防火・避難総プロに関係する資料収集整理業務の受託 全 2 件

国土交通省国土技術政策総合研究所より資料収集整理業務全 2 件を受託し、関係する海外の規制や規格等の情報収集をするとともに、委員会及び WG の運営支援を行った。

8) 木質混構造総プロに関係する情報の整理業務等の受託 全 5 件

国土交通省国土技術政策総合研究所より情報の整理業務全 5 件を受託し、委員会、分科会、WG、TG の運営支援を行った。

(2) 情報発信

1) 機関誌「BELCA NEWS」による情報発信

編集委員会（委員長：小松 幸夫 早稲田大学教授）を 4 回開催し、次のとおり機関誌 BELCA NEWS を発行するとともに、会員、関係団体、報道機関等に配布した。

号数	主な内容	
167 号	刊行年月	令和元年 5 月
	BELCA NEWS 30 周年記念号	
168 号	刊行年月	令和元年 7 月
	特集	ドローン技術の進歩と建築分野への利活用
	トップ・ オピニオン	・佐野 吉彦（㈱安井建築設計事務所 代表取締役社長） ・前田 操治（前田建設工業㈱ 代表取締役社長） ・安藤 純二（㈱ジャスト 代表取締役社長）
	会員コーナー	・㈱ルビコン・リアルティ
169 号	刊行年月	令和元年 10 月
	特集	アリーナの維持管理と改修
	トップ・ オピニオン	・藤田 孝行（㈱グッド・アイズ建築検査機構 代表取締役社長） ・藤澤 進（㈱久米設計 代表取締役社長） ・野上 勇（㈱シミズ・ビルライフケア 代表取締役社長）
	会員コーナー	・㈱エヌ・ティ・ティ・データ
170 号	刊行年月	令和 2 年 1 月
	特集	平成における震災の記憶と教訓
	トップ・ オピニオン	・飯島 一暢（㈱サンケイビル 代表取締役社長） ・夏井 博史（新日本空調㈱ 代表取締役社長） ・八木 秀記（東京美装興業㈱ 代表取締役社長）
	会員コーナー	・㈱FM システム

2) 調査研究・技術開発の成果図書による情報発信

調査研究・技術開発の成果として、次の図書を刊行した。

書籍名	発行日
不動産投資・取引におけるエンジニアリング・レポート作成に係るガイドライン（2019 年版）	令和元年 7 月 3 日
建築物のライフサイクルマネジメント用データ集 改訂版	令和 2 年 3 月 19 日

3) セミナー等による情報発信

建物のロングライフ化に関する情報提供のため、次のセミナーや講習会を開催した。

①新技術・新事業等説明会「集合住宅のロングライフ化にかかる取組み」

会員企業の集合住宅のロングライフ化をテーマとした説明会を開催した。

講演内容	高経年分譲団地の再生への取組み「稲毛海岸三丁目団地リノベーション」
講師	鋤柄 さやか（日本総合住生活株） 変化し続ける集合住宅「NEXT21-第4フェーズ-」 志波 徹（大阪ガス株）
開催地	東京
開催日	平成31年4月19日
参加者	40名

②セミナー「オフィスビルの戦略的な改修企画」

書籍「オフィスビルの戦略的な改修企画 新訂版」を用いて、戦略的な改修の考え方、新しいトレンドを踏まえた改修事例等を解説するセミナーを開催した。

講演内容	戦略的な改修の考え方、新たなトレンドを踏まえた改修事例
講師	丹羽 勝巳（㈱日建設計） 計画的な維持保全に基づき、費用対効果を追求した改修 風間 宏文（三菱地所株）
開催地	大阪
開催日	令和元年5月24日
参加者	66名

③セミナー「エンジニアリング・レポート作成に係るガイドライン（2019年版）」（東京会場）

2019年7月に改訂した書籍「不動産投資・取引におけるエンジニアリング・レポート作成に係るガイドライン（2019年版）」を用いて、ERの作成上の注意点を執筆者が解説するセミナーを東京で開催した。

講演内容	ガイドライン改訂のポイントとエンジニアリング・レポート総論 楠 浩一（ER作成者連絡会議幹事長、㈱竹中工務店）
講師	建物状況調査の解説 土佐林 忠史（ER作成者連絡会議副幹事長、㈱シティエボリューション）
	建物環境リスク評価の解説 糸山 克平（ER作成者連絡会議幹事、日本管財株）
	土壌汚染リスク評価の解説 毛利 郁史（ER作成者連絡会議幹事、大和不動産鑑定株）
	地震リスク評価の解説 杉本 和城（ER作成者連絡会議幹事、SOMPOリスクマネジメント株）
開催地	東京
開催日	令和元年7月3日
参加者	122名

④新技術・新事業等説明会「タイル外壁の改修工法に関する説明会&体験会」

外壁タイルの浮き・剥離の補修・改修工法である「ハイブリッドクイック工法」の詳細説明と工法機材を用いた実演及び体験会を東京と大阪で開催した。

講演内容	①「ハイブリッドクイック工法」説明及びビデオ上映 ②実演（仮想躯体による注入実演） 堀 宏一朗、小関 裕（㈱ホリ・コン）	
開催地	東京	大阪

開催日	令和元年 7 月 5 日	令和元年 12 月 18 日
参加者	34 名	47 名

⑤セミナー「国内外のオフィスビル等の不動産取引における

建築物の技術的情報の活用の最新動向」

国内及び国外のオフィスビル等の不動産取引における建築物の技術的情報の活用の最新動向について解説するセミナーを開催した。

講演内容 講師	国内のオフィスビル取引における建築物の技術的情報の活用の最新動向 渡壁 克好 (株)市浦ハウジング&プランニング)	
	海外のオフィスビル取引で考慮される建物のサステナビリティ要素 高木 智子 (CSR デザイン環境投資顧問(株))	
開催地	東京	
開催日	令和元年 8 月 1 日	
参加者	97 名	

⑥講習会「維持保全計画作成講習会～演習を通じて維持保全計画の作成の仕方を学ぶ～」

維持保全計画を作成する際の要点や活用事例を解説し、計画の中で特に重要な実施体制や点検計画の作成等の演習を行う講習会を開催した。

講演内容 講師	ライフサイクルマネジメントと維持保全 窪田 豊信 (日本管財(株))	
	維持保全計画の構成と作成方法 窪田 豊信 (日本管財(株)) 中村 昌行 (東京ガス不動産(株))	
	維持保全計画の事例 中村 昌行 (東京ガス不動産(株))	
	維持保全計画の作成演習 市川 圭太 (ダイケンエンジニアリング(株))	
開催地	東京	東京 (2 回目)
開催日	令和元年 9 月 11 日	令和 2 年 2 月 27 日
参加者	32 名	25 名

⑦セミナー「より良い維持保全のために

～設計・施工段階でやるべきこと、やってはいけないこと～」(再掲)

より良いメンテナンスのために設計・施工段階で留意すべき事項についての基礎的な知識を解説するセミナーを開催した。

講演内容 講師	より良い維持保全の実現のために建物所有者がやるべきこと 木下 雄一 (東京建物(株))	
	メンテナンス段階での不具合を起こさないために ～不具合事例とその対策～ 山本 義夫 (株)東急コミュニティー)	
開催地	東京	
開催日	令和元年 10 月 2 日	
参加者	49 名	

⑧セミナー「ライフサイクルで建築設計を考える」(再掲)

建築物のライフサイクル (LC) を見通して設計する LC 設計の考え方についての基礎的な知識をわかりやすく解説するセミナーを開催したい。

講演内容	建築物の LC 設計概論及び建築設計における LC 設計の考え方
講師	山中 哲 (㈱日建設計)
	設備設計における LC 設計の考え方
	山中 哲 (㈱日建設計)
開催地	東京
開催日	令和元年 11 月 27 日
参加者	20 名

⑨セミナー「給湯設備の省エネルギー設計の最新動向」(再掲)

BELCA 資格者等に対して、技術の維持・向上及び業務展開に役立つ情報を提供するため、BELCA 資格者セミナー「給湯設備の省エネルギー設計の最新動向」を開催した。

講演内容	給湯設備の省エネルギー設計の最新動向
講師	前 真之 (東京大学准教授)
開催地	東京
開催日	令和元年 12 月 10 日
参加者	37 名

⑩セミナー「エンジニアリング・レポート作成に係るガイドライン (2019 年版)」(大阪会場)

書籍「不動産投資・取引におけるエンジニアリング・レポート作成に係るガイドライン (2019 年版)」を用いて、ER を作成するにはどのような点に注意すべきかを執筆者が解説するセミナーを大阪でも開催した。

講演内容	2019 年版改訂のポイント及び各調査・評価の注意点
講師	楠 浩一 (ER 作成者連絡会議幹事長、㈱竹中工務店)
	地震リスク評価の解説
	杉本 和城 (ER 作成者連絡会議幹事、SOMPO リスクマネジメント㈱)
開催地	大阪
開催日	令和元年 12 月 19 日
参加者	54 名

⑪セミナー「-地震リスク評価の専門家が解説- 地震リスク (PML) 評価の実際と活用の仕方」

エンジニアリング・レポートにおける地震リスク評価について詳しく解説するセミナーを開催した。

講演内容	過去の地震被害と耐震基準の変遷
講師	諏訪 仁 (㈱大林組)
	地震リスク (PML) 評価の解説
	杉本 和城 (SOMPO リスクマネジメント㈱)
	地震リスク (PML) 評価の実例と活用の仕方
	山崎 和彦 (清水建設㈱)
開催地	東京
開催日	令和 2 年 1 月 24 日
参加者	40 名

⑫セミナー「ビルとリノベーションⅡ」

書籍「ビルとリノベーション」を用いて、リノベーションやコンバージョンに関する技術や事例を解説するセミナーを開催した。

講演内容 講師	リノベーション・コンバージョンのこの20年と今後 深尾 精一（首都大学東京）
	リファイニング建築が社会を変える。 青木 茂（株青木茂建築工房）
	東京賃貸オフィスストックの実態と築古中小ビルの利活用 吉田 淳（株ザイマックス不動産総合研究所）
開催地	東京
開催日	令和2年1月27日
参加者	55名

⑬セミナー「～新たなニーズに対応した～ オフィスビルの戦略的な改修企画 2020」

書籍「オフィスビルの戦略的な改修企画 新訂版」を用いて、戦略的な改修の考え方、新しいトレンドを踏まえた改修事例等を解説するとともに、BELCA平成30年度に実施した「第2回 賃貸事務所ビルの寿命に関する意識調査」の結果報告を行うセミナーを開催した。

講演内容 講師	賃貸事務所ビルの寿命に関する意識調査 結果報告 BELCA事務局
	戦略的な改修の考え方、新たなトレンドを踏まえた改修事例 丹羽 勝巳（株日建設計）
開催地	東京
開催日	令和2年2月17日
参加者	47名

⑭セミナー「建築物の瑕疵をめぐる法的問題」

建築物における瑕疵問題を解説するセミナーを開催した。

講演内容 講師	—最近のケーススタディと裁判例で学ぶ— 建築物の瑕疵をめぐる法的問題について<民法改正施行を見据えて> 大森 文彦（弁護士・東洋大学教授）	
	開催地	東京 大阪
開催日	令和2年2月21日	令和2年2月28日
参加者	98名	66名

なお、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、「2019年度 維持保全計画作成講習会（大阪会場）」、「集合住宅のロングライフ化に関する取り組みの説明会&見学会 実験集合住宅 NEXT21～2020年度居住実験に向けた取り組み～」については中止した。また、セミナー「建築物のライフサイクルマネジメント用データ集 改訂版を用いた長期修繕計画策定演習」、若手社員等向けセミナー「建物のライフサイクルと維持保全」については次年度へ延期した。

4) ホームページによる情報提供

協会の概要、BELCA 資格、BELCA 賞等の情報をホームページに掲載し、協会活動の周知を図った。

3. ロングライフ化を助長するための表彰・評価

(1) BELCA 賞の表彰

選考委員会（委員長：三井所 清典（株）アルセッド建築研究所 代表取締役・芝浦工業大学名誉教授）において、第 29 回 BELCA 賞として、長年にわたり適切に維持保全している模範的な建築物（ロングライフ部門）を 3 件、優れた改修を実施した模範的な建築物（ベストリフォーム部門）を 7 件選定し、BELCA NEWS やホームページへの掲載、メディアへの公表を行い、周知した。なお、第 28 回 BELCA 賞の表彰式は、令和元年 5 月 20 日に開催した。

1) ロングライフ部門

建築物名	所在地
熊本県立劇場	熊本県熊本市
箔屋町ビル	東京都中央区
ヒルサイドテラス 1 期～5 期	東京都渋谷区

2) ベストリフォーム部門

建築物名	所在地
赤坂プリンス クラシックハウス （東京都指定有形文化財 旧李王家東京邸）	東京都千代田区
旧名古屋銀行本店ビル	愛知県名古屋市
近三ビルヂング	東京都中央区
白井市庁舎	千葉県白井市
日本万国博覧会記念公園太陽の塔	大阪府吹田市
港区立郷土歴史館等複合施設（ゆかしの杜）	東京都港区
美馬市地域交流センター ミライズ	徳島県美馬市

(2) ロングライフ化に資する技術等の評価

1) 優良補修・改修工法等評価事業の実施

既に優良補修・改修工法として評価されている工法等について、機関誌 BELCA NEWS、ホームページ、会員の新技术・新事業等説明会等で周知を行った。

2) 耐震改修計画評定事業の実施

耐震改修計画については名古屋委員会（委員長：小濱 芳朗 名古屋市立大学名誉教授）で 7 棟の評定を行った。

3) 公営住宅最適改善手法評価事業の実施

委員会（委員長：吉田 倬郎 工学院大学名誉教授）で 1 団地 1 棟について耐震性、構造安全性、避難安全性、居住性、事業性等から全面的改善事業としての適否について評価を行った。

4. ロングライフ化を推進するための共益事業等

(1) 会員向けの情報提供・会員情報の発信

協会ホームページにおいて、会員のビルのロングライフ化に関する取り組みをまとめた「会員ページ」、新技术・新事業等説明会の開催結果、診断実施会員リスト及び補修・改修実施会員リスト等の会員情報を発信した。ホームページ内に設けた「正会員専用ページ」においては機関誌 BELCA NEWS のバックナンバーの掲載を、「エンジニアリング・レポート作成者連絡会議専用ページ」においてはエンジニアリング・レポート作成者連絡会議の活動の情報提供を行った。

また、「BELCA 会員名簿 2019～2020」を発行するとともに、BELCA NEWS のトップ・オピニオンや会員コーナーで会員の活動を情報発信するとともに、次の展示会において、補修や改修に関する会員のパンフレットを配布するなど、会員の情報を発信した。

名称	主催	開催期間
R&R 建築再生展 2019	建築再生展組織委員会	令和元年6月11日～6月13日
第21回不動産ソリューションフェア	㈱ビル経営研究所	令和元年9月19日～9月20日

(2) エンジニアリング・レポート（ER）の品質の確保と普及

ER 作成技術及び ER の品質の向上等のため、ER 作成者連絡会議において全体会議、幹事会、分科会等で情報収集、研修に努めるとともに、今後の ER の活用・普及のための活動方策について検討した。

1) 全体会議

全体会議（議長：楠 浩一（㈱竹中工務店）を1回開催し、平成30年度活動報告の承認を行った。また、「国内外のオフィスビル等の不動産取引における建築物の技術的情報の活用の最新動向」（講師：渡壁 克好（㈱市浦ハウジング&プランニング）、高木 智子（CSR デザイン環境投資顧問㈱）と題する講演会（再掲）の開催に協力した。

2) 幹事会

幹事会（議長：楠 浩一（㈱竹中工務店）を1回開催し、ER 作成者連絡会議の活動計画及び活動報告の作成、全体会議の企画等に関する調整を行った。

3) 普及委員会

委員会（委員長：島本 正男（清水建設㈱）を2回開催し、平成24年度に行った「エンジニアリング・レポート作成業務の実施状況調査」について再度実施し、普及に必要な情報収集・整理を行った。

また、セミナー「不動産投資・取引におけるエンジニアリング・レポート作成に係るガイドライン（2019年版）」（再掲）及びセミナー「地震リスク評価の実際と活用の仕方」（再掲）の開催に協力した。

4) 技術委員会

建物状況調査分科会を3回、建物環境・土壌汚染リスク評価分科会を2回、地震リスク評価分科会を2回開催し（それぞれ合同分科会の開催含む）、情報収集・意見交換を行った。また、各分科会合同で建物見学会を行った。

また、書籍「不動産投資・取引におけるエンジニアリング・レポート作成に係るガイドライン」の改訂に協力した。

(3) 耐震診断評定事業の実施

耐震診断については名古屋委員会（委員長：小濱 芳朗（名古屋市立大学名誉教授）で18棟の評定を行った。

(4) マンション定期診断の周知

マンションの定期的な診断の普及を図るため、BELCA が定める登録基準を満たす正会員1社を「マンションドック」として登録し、BELCA ホームページや展示会等で周知した。

(5) 見学会の開催

令和2年1月29日、大規模リニューアル工事中の大手町ビルディング（東京都千代田区大手町1-6-1）の見学会を開催し、25名が参加した。